

2015 高岡万葉セミナー 古写本の魅力

第1日▶

8/1 土

13:00~16:25



13:00~13:10 オリエンテーション・開講式

13:10~14:40 第1講 校訂を通して古写本の魅力を探る

平舘 英子 (日本女子大学教授)

古写本の魅力は、料紙や書風を愛でつつ、そこに書き記された文字の織りなす世界が固有の万葉集の理解を考えさせることにある。そうした古写本と校訂を通して把握される万葉歌の読みとの関係を考察する。



14:55~16:25 第2講 テキストとしての廣瀬本万葉集

乾 善彦 (関西大学教授)

廣瀬本万葉集は、冷泉本の完本として、また、次点本の完本として、万葉集の校訂や本文研究において大きな注目を集めてきた。また、伝本研究としては、片仮名訓本の成立についての新たな知見を提供してきた。そこで今回は、万葉集自体の研究資料としての廣瀬本はひとまずおいて、①片仮名平仮名交互テキストとしての廣瀬本、②近世写本としての廣瀬本、という二つの観点から廣瀬本自体の魅力について考えてみたい。



第2日▶

8/2 日

9:30~15:00

9:30~11:00 第3講 春日本万葉集と古葉略類聚鈔

一中臣祐定の万葉学

田中 大士 (国文学研究資料館教授)

奈良春日若宮社神主の中臣祐定は、13世紀中頃に二種類の万葉集関係書を書写、作成した。春日本万葉集と古葉略類聚鈔である。同じ人物の手になるこの二種の本は、万葉集の伝本としてみたととき、好対照な性格を有している。それ故、この二種を見比べると、お互いの性格がより際立って浮かび上がる。このような観点から、両者の伝本としての性格を解説し、それらの書写、制作に関わった祐定の万葉集への取り組みについても述べる。



11:00~12:15 昼食

12:15~13:45 第4講 装丁・料紙・書の交響が生み出す歌の姿

『萬葉集』の平安古写本の魅力

小川 靖彦 (青山学院大学教授)

平安時代の『萬葉集』の写本は、美しい料紙に能書が揮毫し佳麗な調度品として仕立てられた。その装丁は卷子本や冊子本の特徴を最大限に引き出し、料紙の染紙は最新の染色技術による。書は、藤原行成に始まる和様書道に新境地を開く実験場であり、しかも能書は独自の美意識と解釈に基づき、新たな本文さえも生み出した。尾上柴舟による美の発見も視野に入れつつ、各写本の装丁・料紙・書の交響が生み出した歌の姿の魅力を楽しむ。



14:00~15:00 第5講 トークセッション「写本の美を語る」

田中 大士・小川 靖彦 司会：新谷 秀夫 (当館学芸課長)

学会をリードする万葉集の古写本研究者によるトークセッション。

交通のご案内



●高岡駅より車で約25分

●新高岡駅より車で30分

※新高岡駅と高岡駅の間は、約10分間隔でシャトルバスが発着 (新高岡駅・高岡駅古城公園口とも1・2番のりば、料金160円、所要時間約8分)

●高岡駅古城公園口バス乗降場4番乗り場よりバスで約25分乗車…伏木一宮下車 徒歩約7分

※西まわり古府循環・東まわり古府循環・西まわり伏木循環行きなど

●JR水見線伏木駅より徒歩約25分

●能越自動車道高岡北ICより車で約20分



井上靖も小説に描いた高岡の夏の風物詩
「高岡七夕まつり」 8月1日(土)~7日(金)
場所：高岡市中心商店街

歴史館の最新情報、
日々の出来事は
こちら!



●ツイッター

家持くん @manreki

いけぬし君 @ikenushi

おおいらつめちゃん @oiratsume

万葉人・高岡市万葉歴史館館長

@akahitomusimaro